

第**202**期 中間期

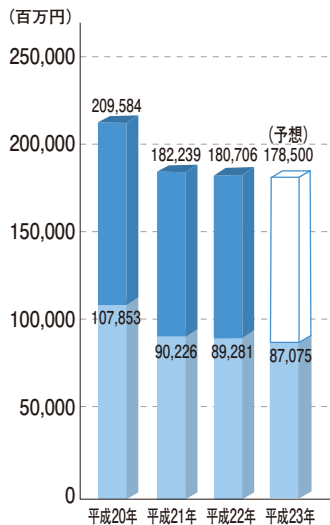
株 主 通 信

平成23年4月1日～平成23年9月30日



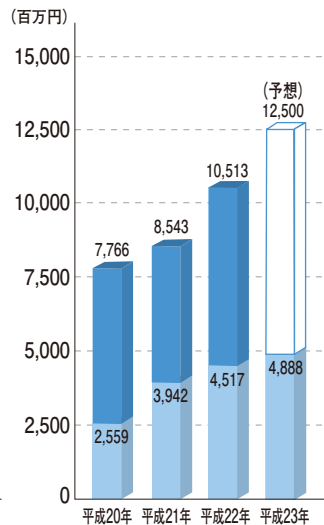
業績の推移

■連結売上高



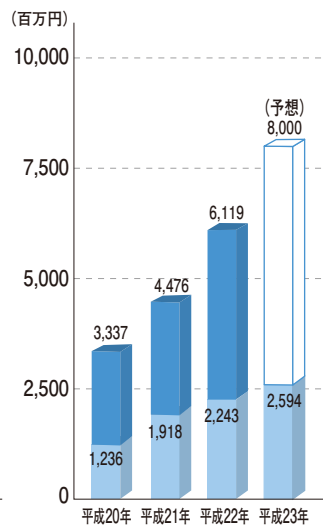
■ 通期 ■ 第2四半期累計

■連結営業利益



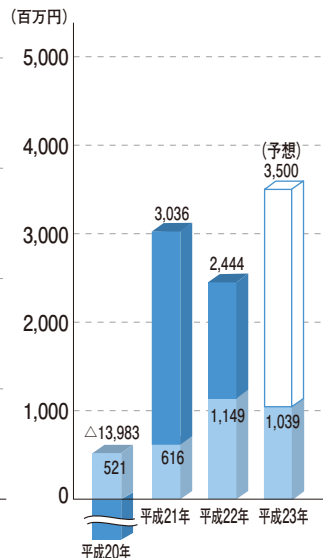
■ 通期 ■ 第2四半期累計

■連結経常利益



■ 通期 ■ 第2四半期累計

■当期(第2四半期)純利益



■ 通期 ■ 第2四半期累計

■セグメント別 連結売上高・連結営業利益

- 高分子事業
- 機能材事業
- 繊維事業
- その他

連結売上高 合計 87,075百万円

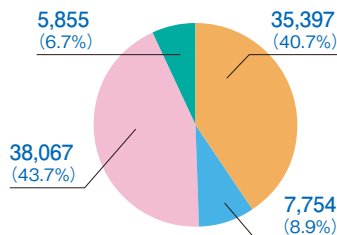
連結営業利益 合計 4,888百万円

※セグメント別の連結営業利益は部門間消去前の数値で表示しております(合計6,084百万円)。

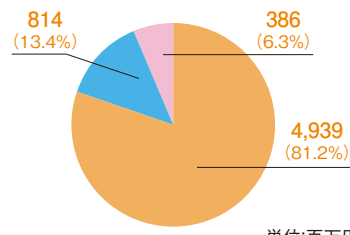
※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

※「その他」の連結営業利益は損失となっていますので、構成比で表示していません。

連結売上高(構成比)



連結営業利益(構成比)



単位:百万円

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろよりご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第202期第2四半期累計期間(平成23年4月1日から同9月30日まで)の業績につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災後、大幅に落ち込みましたが、寸断されたサプライチェーンの立て直し、それに伴う需要の回復及び供給面の制約が概ね解消したことにより持ち直し、夏場の電力不足も節電や輪番操業などで乗り切りました。しかしながら、欧米景気の減速など世界経済の変調による外需の縮小や急激な円高の進行によって輸出環境が悪化しており、中国など新興国の成長は引き続き期待できるものの、先行きには不透明感が一段と高まっています。

このような状況の下、当社グループは、本年度が最終年度となる中期経営3カ年計画『改革'11』に掲げる施策に基づき、構造改革を引き続き推進するとともに、繊維事業の収益立て直し、機能資材メーカーとして高分子などの事業強化を図ってまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間につきましては、売上高は87,075百万円(前年同期比2.5%減)、営業利益は4,888百万円(同8.2%増)、経常利益は2,594百万円(同15.7%増)、第2四半期純利益は1,039百万円(同9.6%減)となりました。

なお、中間配当につきましては、引き続き見送ることとさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後につきましては、震災の影響、原燃料価格高騰によるコストアップ、為替動向など、企業業績に影響を及ぼす不安定な要素はありますが、当社グループは、状況変化に対応した施策の見直しを行い、『改革'11』に掲げる施策を着実に遂行します。そして、収益目標のクリアとともに、収益基盤の改善と早期安定化、財務状態の改善を図ります。事業構造改革は、引き続き、衣料繊維分野など構造改善部門については事業運営の更なる効率化を図ります。一方、成長分野に関しては、既に進めているものも含めて、高分子・機能材分野を中心とした「機能資材」において、事業力の強化を推進し、将来にわたり持続可能な企業体の構築に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月



代表取締役社長

安江 健治

フィルム事業では、包装分野は、ナイロンを中心に活発な需要に支えられ売上げが大幅に伸ばしたほか、差別化品の拡販が進んだこともあり、業績を伸ばしました。一方、工業分野は、IT・液晶関連での生産調整による販売数量の落込み、品質向上などを目的とした一部生産設備改造のための一時的停止もあり、減収となりました。この結果、事業全体で増収増益となりました。

樹脂事業では、ナイロンは、主要の自動車用途の販売減と原燃料価格高騰の影響を受け、苦戦しました。ポリエステルは、ボトル用途の売上げが減少し、接着剤用途の伸長で一部収益をカバーしましたが、原燃料価格高騰により採算は悪化しました。一方、当社独自のポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、事務機器・精密機器用途などで販売が堅調に推移し、収益に貢献しましたが、全体で減収減益となりました。

不織布事業では、ポリエステルスパンボンドは、農業・ルーフィング・土木用途が堅調に推移し、自動車・生活資材用途の需要減をカバーしました



直線カット性で開封性に優れる
ナイロンフィルム「エンブレムNC」



「Uポリマー」使用
自動車ターンランプ アンバーキャップ



スパンボンド農業用シート
「ラブシート」



バイオプラスチック「テラマック」
使用耐熱コップ

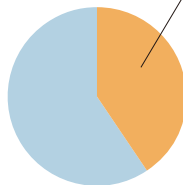
が、原燃料価格上昇分を価格改定で十分に吸収できず、また円高による輸出品の採算悪化もあり苦戦しました。綿スパンレースは、夏期の節電対策の影響でウェットシート用途が好調に推移しました。この結果、事業全体で増収となり、利益は横ばいとなりました。

バイオマスプラスチック「テラマック」は、フィルム、樹脂、不織布、繊維の各分野で積極的に展開しています。震災影響で一部顧客の減産により数量が落ち込んだ用途もありますが、生活雑貨用途を中心に採用は着実に進んでいます。

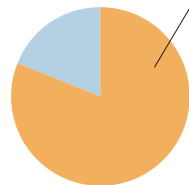
以上の結果、高分子事業の売上高は35,397百万円(前年同期比7.0%増)、営業利益は4,939百万円(同0.7%減)となりました。

■高分子事業 売上高・営業利益(構成比)

売上高
35,397百万円(40.7%)



営業利益
4,939百万円(81.2%)



ガラス繊維は、内装材用途が新規建築物の伸び悩みにより、また自動車用途が生産調整により、それぞれ苦戦したものの、ビル・土木改修用途が堅調に推移し、その他の用途も伸長しました。ICクロスは、輸出の売上げとともに、超薄物タイプなどの高付加価値品が伸長したものの、震災影響で一部顧客の稼働率低下により伸び悩み、全体的には採算は引き続き厳しい状況で推移しました。ガラスビーズは、ロードマーキング用途は堅調でしたが、工業用途は高付加価値品の受注が震災影響で来期へずれ込んだことなどにより減収となり、反射材用途も輸出先である欧米の景気悪化と円高により苦戦しました。また、活性炭繊維は、水栓内蔵型などの浄水器用途や業務用マスク用途が伸長しました。

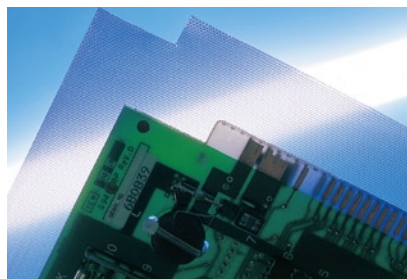
以上の結果、機能材事業の売上高は7,754百万円(前年同期比2.8%増)、営業利益は814百万円(同0.5%増)となりました。



ガラスビーズ「ユニビーズ」
使用道路(白線)



高性能VOC除去シート



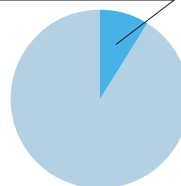
プリント配線基板用ICクロス



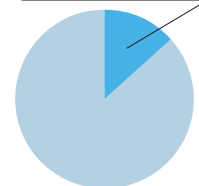
活性炭繊維フィルター「デキシフィルター」

■機能材事業 売上高・営業利益(構成比)

売上高
7,754百万円(8.9%)



営業利益
814百万円(13.4%)



セグメント別の状況

繊維事業

産業繊維事業では、ポリエステル高強力糸が建築・土木用途で堅調に推移しましたが、ポリエステル短繊維は、売上げが伸長したものの円高による採算悪化や原燃料価格上昇分を価格改定で十分に吸収できなかったため、収益は厳しい状況となりました。また、ビニロン繊維は、アスベスト代替のセメント補強用途で欧州市況の回復遅れをカバーすべく、新興国市場での新規開拓を行い、全体的な販売数量は増加しましたが、価格競合、円高、原燃料価格高騰の影響などにより採算面で苦戦し、収益改善には至りませんでした。

衣料繊維事業では、ユニフォームが官需・民需とも好調に推移しました。また、ポリエステル長繊維などの差別化系の売上げが増加しました。スポーツ・レディス分野では、節電意識の高まりから



カーシート用途



建設資材用途



土木用途



衣料用途

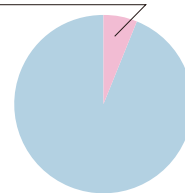
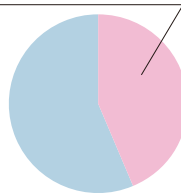
秋冬物の保温性機能素材の販売が堅調に推移しました。衣料繊維事業の売上げは、選択と集中により減少傾向にありますが、収益の改善が一層進みました。

以上の結果、繊維事業の売上高は38,067百万円（前年同期比0.6%減）、営業利益は386百万円（同858.9%増）となりました。

■繊維事業 売上高・営業利益（構成比）

売上高
38,067百万円(43.7%)

営業利益
386百万円(6.3%)



生活健康事業では、ハナビラタケ関連商品などの健康食品や飼料原料は堅調に推移しましたが、食品機能素材は、国内の需要低迷などにより苦戦しました。メディカル事業では、医用材料分野は、循環系カテーテルが伸長し、生化学分野は、酵素が欧米向けの輸出で苦戦しましたが、診断薬は伸長し、全体として堅調に推移しました。また、マンション販売など不動産関連事業は、概ね堅調に推移しました。

以上の結果、環境プラント事業譲渡の影響などから、その他の売上高は5,855百万円（前年同期比43.6%減）、営業損失は56百万円（前年同期は18百万円の損失）となりました。



健康補助食品



医用材料



臨床診断薬



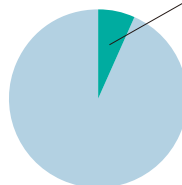
不動産関連事業

■その他 売上高・営業損失（構成比）

売上高
5,855百万円(6.7%)

営業損失
56百万円(一%)

※営業利益は損失になっています。



四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目 | 当第2四半期 連結会計期間 (平成23年9月30日) | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 科 目 | 当第2四半期 連結会計期間 (平成23年9月30日) | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) |
|-----------------|----------------------------------|-------------------------|--------------------|----------------------------------|-------------------------|
| (資産の部) | | | (負債の部) | | |
| 流動資産 | | | 流動負債 | | |
| 現金及び預金 | 20,602 | 16,786 | 支払手形及び買掛金 | 22,708 | 24,952 |
| 受取手形及び売掛金 | 43,177 | 41,898 | 短期借入金 | 71,554 | 73,893 |
| たな卸資産 | 49,922 | 46,615 | 1年内返済予定の長期借入金 | 33,271 | 37,480 |
| その他 | 4,250 | 4,514 | 未払法人税等 | 319 | 325 |
| 貸倒引当金 | △221 | △233 | 賞与引当金 | 1,553 | 1,160 |
| 流動資産合計 | 117,731 | 109,580 | 工事損失引当金 | 13 | — |
| 固定資産 | | | 事業構造改善引当金 | 276 | 624 |
| 有形固定資産 | | | その他 | 11,539 | 10,869 |
| 土地 | 104,799 | 104,606 | 流動負債合計 | 141,237 | 149,306 |
| その他(純額) | 49,599 | 47,062 | 固定負債 | | |
| 有形固定資産合計 | 154,399 | 151,669 | 長期借入金 | 82,502 | 71,176 |
| 無形固定資産 | | | 退職給付引当金 | 6,341 | 5,651 |
| のれん | 25 | 3 | 役員退職慰労引当金 | 59 | 71 |
| その他 | 773 | 727 | その他 | 16,831 | 16,556 |
| 無形固定資産合計 | 798 | 731 | 固定負債合計 | 105,735 | 93,456 |
| 投資その他の資産 | | | 負債合計 | 246,972 | 242,762 |
| その他 | 6,988 | 7,368 | (純資産の部) | | |
| 貸倒引当金 | △591 | △609 | 株主資本 | | |
| 投資その他の資産合計 | 6,397 | 6,758 | 資本金 | 26,298 | 23,798 |
| 固定資産合計 | 161,594 | 159,159 | 資本剰余金 | 4,161 | 1,661 |
| | | | 利益剰余金 | △905 | △1,943 |
| | | | 自己株式 | △55 | △55 |
| | | | 株主資本合計 | 29,498 | 23,460 |
| | | | その他の包括利益累計額 | | |
| | | | その他有価証券評価差額金 | △69 | △49 |
| | | | 繰延ヘッジ損益 | △6 | 43 |
| | | | 土地再評価差額金 | 2,453 | 2,452 |
| | | | 為替換算調整勘定 | △3,238 | △3,569 |
| | | | その他の包括利益累計額合計 | △862 | △1,123 |
| | | | 少数株主持分 | 3,716 | 3,641 |
| | | | 純資産合計 | 32,353 | 25,977 |
| 資産合計 | 279,326 | 268,740 | 負債純資産合計 | 279,326 | 268,740 |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | (単位：百万円) | |
|-----------------|---|---|
| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) |
| 売上高 | 87,075 | 89,281 |
| 売上原価 | 70,126 | 72,568 |
| 売上総利益 | 16,948 | 16,713 |
| 販売費及び一般管理費 | 12,060 | 12,196 |
| 営業利益 | 4,888 | 4,517 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 70 | 92 |
| 受取配当金 | 66 | 72 |
| 持分法による投資利益 | — | 7 |
| その他 | 586 | 563 |
| 営業外収益合計 | 723 | 735 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,636 | 1,820 |
| 持分法による投資損失 | 157 | — |
| その他 | 1,222 | 1,189 |
| 営業外費用合計 | 3,016 | 3,009 |
| 経常利益 | 2,594 | 2,243 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 16 | 293 |
| 特別利益合計 | 16 | 293 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産処分損 | 299 | 213 |
| 投資有価証券評価損 | 8 | 431 |
| 事業構造改善費用 | 482 | 206 |
| 退職給付制度終了損 | 291 | 13 |
| その他 | 162 | 614 |
| 特別損失合計 | 1,244 | 1,479 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,366 | 1,056 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 227 | 388 |
| 法人税等調整額 | 88 | △507 |
| 法人税等合計 | 315 | △118 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 1,050 | 1,175 |
| 少数株主利益 | 11 | 26 |
| 四半期純利益 | 1,039 | 1,149 |

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | (単位：百万円) | |
|-----------------------|---|---|
| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,366 | 1,056 |
| 減価償却費 | 2,789 | 3,087 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △21 | 134 |
| 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | 683 | 635 |
| 事業構造改善引当金の増減額 (△は減少) | △348 | △263 |
| その他の引当金の増減額 (△は減少) | 395 | △65 |
| 支払利息 | 1,636 | 1,820 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △1,247 | △3,081 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | △3,269 | 3,655 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | △2,238 | △2,701 |
| その他 | 1,738 | 52 |
| 小 計 | 1,484 | 4,330 |
| 利息及び配当金の受取額 | 150 | 415 |
| 利息の支払額 | △1,684 | △1,809 |
| 法人税等の支払額 | △225 | △202 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △274 | 2,733 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の増減額 (△は増加) | △2 | △161 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △32 | △10 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 7 | 15 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △5,279 | △2,161 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 35 | 850 |
| その他 | △148 | △86 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △5,418 | △1,553 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | △2,468 | △3,603 |
| 長期借入れによる収入 | 27,580 | 16,087 |
| 長期借入金の返済による支出 | △20,460 | △14,449 |
| 転換社債型新株予約権付社債の発行による収入 | 5,000 | — |
| 社債の償還による支出 | — | △200 |
| その他 | △217 | △218 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 9,433 | △2,383 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 73 | △148 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 3,813 | △1,351 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 16,589 | 20,160 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 20,403 | 18,809 |

バイオマス素材「テラマック」を使用

カーボンオフセット付きエコ製品

ユニチカは、インターネット通販ショップ「ユニチカオンラインショップ」において、植物由来のポリ乳酸から生まれたバイオマス素材「テラマック」を使用したカーボンオフセット付きエコ製品を販売しています。カーボンオフセットとは、商品の原料調達から製造・物流・廃棄までで発生するCO₂の排出量を把握し、企業の排出削減努力では対応しきれない部分を、森林吸収源プロジェクトなどから創出された排出権を買い取ることで相殺（オフセット）する仕組みです。CO₂の増加を抑制する環境低負荷なバイオマス素材「テラマック」を用いた製品にカーボンオフセットを行うことで、さらに環境

にやさしい製品としてお求めいただけます。現在、ユニチカオンラインショップでは、〈水切りゴミ袋〉、〈エコバッグ〉、〈ボディタオル〉の3製品を取り扱っています。



水切りゴミ袋



エコバッグ tate-pleats



エコバッグ kusha



ボディタオル 恵

【ユニチカオンラインショップ】 <http://www.utk-shop.jp/>

【お問合せ先】 テラマック事業開発部 TEL:06-6281-5245 FAX:06-6281-5849 URL:<http://www.unitika.co.jp/terramac/>

食品、工業製品及び土壌に関する放射能問題に対応

放射線/放射能検査事業を開始

現在、放射線/放射能による健康不安や環境、食品等への影響などが問題となっています。また、海外では、EUを始めとする一部の国や地域が、日本産の農林水産物などの食品を輸入するにあたり、放射線/放射能についての「非汚染証明」を求めるケースが増えています。このような状況の中、(株)ユニチカ環境技術センターは、放射線/放射能検査事業を開始し、食品を始め工業製品や土壌の放射線/放射能問題に関する顧客からの要望に迅速にお応えしています。今後は、それらの知見をいかし、放射線/放射能の「除染効果確認」や「災害廃棄物処理施設の環

境測定」に関する事業を展開していきます。

(株)ユニチカ環境技術センターは、農林水産省から「平成23年度輸出農産物等放射能検査対応事業」の承認を受けています。また、この分野でのISO/IEC17025取得を目指しています。



【お問合せ先】 (株)ユニチカ環境技術センター TEL:0774-25-2522 FAX:0774-25-2355 URL:<http://www.unitika.co.jp/kangi/>

ユニチカグループの紹介

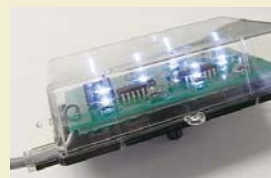
株式会社 コソフ

(株)コソフは、主にセンサーなどに使われる構造部品、光学部品の射出成形を事業としています。(株)コソフでは、コア技術である「インサート成形」、「一体成形」、「封止成形」をいかし、超小型化や防水化という困難な要求に対応しています。また、小ロット、短納期にも対応可能な生産体制及び万全の品質管理体制を確立しています。さらに、一般成形品においても、成形用樹脂の選定から、構造設計、金型設計、後加工、組立てに至るまで、総合的な範囲での提案活動に取り組んでいます。

今後も、顧客の的確なニーズに応え、新たな特殊成型技術や機能部品の創出に取り組み、社会への貢献度を高めていきます。



■本社工場



■中空封止成型品

京都府久世郡久御山町佐山新開地331
TEL : 0774-45-1201 FAX : 0774-45-1215
URL : <http://www.3.ocn.ne.jp/~cosof/index2.html>

株式の状況 (平成23年9月30日現在)

- 発行済株式の総数 572,960,324株
- 株主数 64,009名
- 単元株主数 53,889名
- 大株主

| 株主名 | 株式数 | 持株比率 |
|--|----------|-------|
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 23,345千株 | 4.07% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) | 20,770 | 3.62 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) | 18,096 | 3.16 |
| 大同生命保険株式会社 | 12,650 | 2.21 |
| ユニチカ従業員持株会 | 10,509 | 1.83 |
| 那須功 | 9,300 | 1.62 |
| バンクオブニューヨーク証券・IA トラディショナル アカント ジェイ・アルティ アイニジ - エイター | 8,694 | 1.51 |
| 日本生命保険相互会社 | 7,726 | 1.34 |
| チェースマンハッタンバンク・ジーティーエス クライアント アカウント エスクロウ | 7,425 | 1.29 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) | 6,548 | 1.14 |

(注) 持株比率は自己株式(568,871株)を控除して計算しております。

会社の概要 (平成23年9月30日現在)

社名 ユニチカ株式会社
 創立 明治22年6月19日
 資本金 26,298,450,000円
 本店 兵庫県尼崎市東本町一丁目50番地
 大阪本社 〒541-8566
 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号
 電話06-6281-5722
 (人事総務部法務グループ)
 東京本社 〒103-8321
 東京都中央区日本橋室町三丁目4番4号
 電話03-3246-7540 (東京総務部)
 研究所 中央研究所(宇治)
 事業所 貝塚事業所・垂井事業所・豊橋事業所
 常盤事業所・宮川事業所・坂越事業所
 宇治事業所・岡崎事業所
 営業所 名古屋・京都他
 従業員数 連結 4,748名 単体1,209名

役員 (平成23年9月30日現在)

| | |
|-----------------|--------|
| 代表取締役 社長執行役員 | 安江 健治 |
| 代表取締役 専務執行役員 | 山口 裕正 |
| 代表取締役 常務執行役員 | 中木 明郎 |
| 取締役 上席執行役員 | 注連 浩行 |
| 取締役 上席執行役員 | 松永 卓郎 |
| 監査役(常勤) | 菅原 健一 |
| 監査役 | 吉田 俊朗 |
| 監査役 | 半林 亨* |
| 監査役 | 軒原 正夫* |

*は社外監査役

執行役員 (平成23年9月30日現在)

| | |
|--------|-------|
| 上席執行役員 | 津川 優 |
| 上席執行役員 | 田頭 弘美 |
| 上席執行役員 | 阪田 誠造 |
| 執行役員 | 立石 清一 |
| 執行役員 | 吉原 寛 |
| 執行役員 | 永田 直彦 |
| 執行役員 | 榎田 晃 |
| 執行役員 | 小畑 政信 |
| 執行役員 | 長谷川 弘 |
| 執行役員 | 上埜 修司 |

株主メモ

| | | | |
|--------|---|----------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで | 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 | 特別口座管理機関 | |
| 基準日 | 定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日 | 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777(通話料無料) |
| 公告方法 | 電子公告(当社ホームページに掲載) http://www.unitika.co.jp/ir/notice/index.html ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 | | |

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。



環境に配慮した植物油
インキを使用しています

